

授業科目レベルでの PDCAサイクル実施を通じた 授業改善計画について

教育の質向上委員会
FD担当 井手悠一郎

「教学マネジメント指針」概要

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

2

教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源(人員や施設等)や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示す。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

「大学全体」レベル

三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」(DP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「入学者受入れの方針」(AP)

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

IV

教学マネジメントを支える基盤
(FD・SD、教学IR)

I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

II 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- ✓ 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆ�ため、複数の情報を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保
- ✓ DPIに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

V 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- ✓ 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成が求められる

積極的な説明責任

社会からの信頼と支援

「学位プログラム」レベル

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング、キャップ制、選抜数回授業、アクティブ・ラーニング、主専攻・副専攻

「授業科目」レベル

ルーブリック、GPA、学修ポートフォリオ

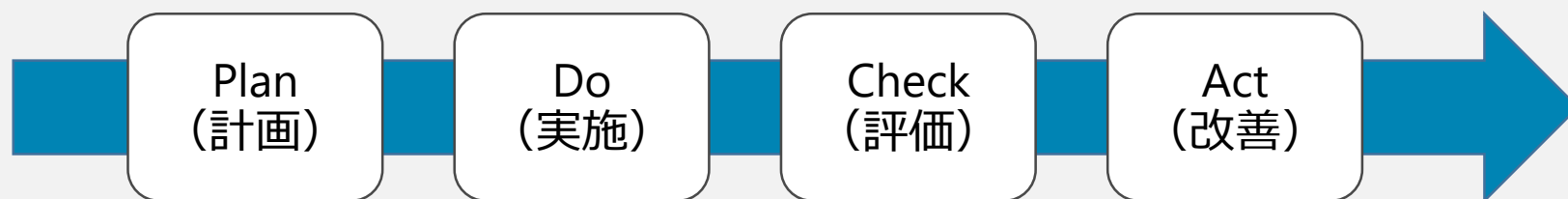
項目の例は別途整理

I ~ Vの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントプラン)に則り、大学教育の成果を点検・評価

授業科目レベルでのPDCA

3



漫然と毎年同じ内容の授業を行うの
ではなく、学生における授業目標
達成度に基づいた**毎年の授業改善**
活動が求められる

授業改善活動のために

4

授業改善を行うためには、

- ① **授業目標の達成度合いがどの程度であったか**
- ② **学習目標達成のための方法（授業構成）が適切であったか**

を調べる必要がある

授業科目レベルでのPDCA

5



授業目標・授業計画の設計


授業目標達成度の評価方法
(ループリック) の公開

到達のための方法（授業設計）が
適切であったかの調査を計画

2つの評価

6

①学修目標の
到達度を評価



学修目標	到達のための方法	到達度評価
化学的思考	講義、実験	小レポート、 実験レポート
情報収集	レポート・発表資料作成	実験レポート、 発表資料
社会問題	発表資料作成	発表資料、 発表内容
協働	発表資料作成	グループワークの 相互評価

②学修目標に到達するための方法が適切であったか

2つの評価

7

①学修目標の理解度を評価

3. 1、2の内容は十分に理解できましたか？

よく理解できた ・ まあまあ理解できた ・ どちらでもない

・ あまり理解できなかった ・ 全く理解できなかった

4. 1、2を理解する上で難しかったところがあれば記載してください。

(特になければ空白で大丈夫です)

②学修目標を達成するための方法（講義）を評価

(化学 小レポートより)

授業科目レベルでのPDCA

8



それぞれの評価を集計し、
次年度に向けた改善策を検討

集計結果の例

22

第1回授業の目標内容は、
十分に理解できたか？



自由記述①

23

「スピードがはやいなと思いました。」

「レポートを書くのが難しかったです。またどんな風を書いていいかわかりません。」

次年度の課題

26

- レポートの書き方の説明強化（説明しなさい、の書き方を含む）
- 遺伝子組換え技術の順番の明示
- 医療用微量タンパク質部分の説明内容の再考
- “プロトコル”、“遵守”等の言葉の代替

授業科目レベルでのPDCA

9



授業改善計画書の作成
(⇒教務課への提出?)

次年度シラバスへの反映

参考の書式

10



授業改善計画	配点	目標達成のための方法 (Plan)	配点	到達度評価の方法 (Do)	評価 (Check 1)	この方法で良いのか、その具体的方法は適切か ・学習目標達成のための方法の評価	評価 (Check 2)	次年度への改善計画 (Act)
1 情報機器の基本的な操作ができる。	10	レポートをワードファイルで作成し、WebClass上で実際に提出操作を行う。	10	1 レポート提出状況の確認	100%	1 ・レポート提出時アンケート 今回のレポートの取り組みを通してWord、WebClassの基本的な使い方は修得できましたか？	1	
2 必要な文献・図書の情報を収集することができる。	20	2 正しい情報を検索し、書式に則って引用する。	20	2 引用箇所の確認	80%	2 ・レポート提出時アンケート 今後、Webや図書から必要な情報を収集し、正しく引用することができますか？	2	授業内または補足資料にて、引用の書き方等の説明を加える
3 情報を運用する上での正しい倫理観を身につける。	70	3-1 モラルハザード事例の当事者および周囲の気持ちを考える。	10	3-1 発表資料の該当箇所の確認	100%	3-1 ・レポート提出時アンケート モラルハザード事例の当事者および周囲の気持ちを考えることで、その事例の問題点が理解できましたか？	3-1	
		3-2 適切な再発防止策を個人レベル、集団レベルで考える。	10	3-2 発表資料の該当箇所の確認	100%	3-2 ・レポート提出時アンケート 再発防止策を考えることで、どのようなことが倫理的であるかを理解することができましたか？	3-2	
		3-3 他グループの事例について上記項目を考える。	20	3-3 レポートの該当箇所の確認	100%	3-3 ・レポート提出時アンケート 他グループの事例について自分なりに考えることで、あなたの倫理観は深まりましたか？	3-3	
		3-4 社会からの期待と看護学生としてのあるべき姿を考える。	30	3-4 レポートの該当箇所の確認	100%	3-4 ・レポート提出時アンケート 社会から期待される看護職者としての倫理観を理解し、あるべき姿について考えることができましたか？	3-4	

今回紹介したやり方はあくまで参考
何より授業科目ごとに授業改善活動
(=PDCAサイクル)を実施する
ことが重要

後期に向けたFD活動として 11

全学的な授業科目レベルでのPDCA
実施を見据えて、今年度後期は
FD活動として試験的に科目ごとに
授業改善計画を作成

次年度からの本格的な導入に向けて、
まずは体験をしてみましよう！